

第8回ぐんま青少年基本調査の結果概要について

1 調査実施の概要

(1) 趣旨・目的

子ども・若者の健やかな成長と社会的自立を支えるため、子ども・若者の実態を的確に把握することを目的に青少年の基本調査を定期的実施している。

なお、前回（第7回調査）は平成28年に実施した。

(2) 調査期間

令和5年11月20日～令和5年12月22日

(3) 調査内容

抽出により県内の小学5年、中学2年、高校2年生、小5・中2の教員、小5・中2の保護者、青年、相談機関等利用者を対象としてアンケートを実施した。
(総回答数：2,992人)

2 調査結果の概要

- ・別紙、第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要のとおり

※報告書は県HPに掲載 (<https://www.pref.gunma.jp/page/647642.html>)

3 調査結果の活用について

- ・「ぐんま子ども・若者未来ビジョン2020」の次期計画の策定作業に当たり、本調査結果を活用していく。
- ・市町村、学校、関係団体等に調査結果を提供し、青少年の支援・指導に活用していただく。

(別紙) 第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要

(1) 学校生活

授業がおもしろいと感じている人は、前回調査と比較すると、中学生で20.0%から27.1%、高校生で13.0%から28.0%に増加し、小学生ではほぼ同割合になった。学校行事が楽しいと感じている人は、各年代で約4割から約5割に増加している。

図1 「授業がおもしろい」

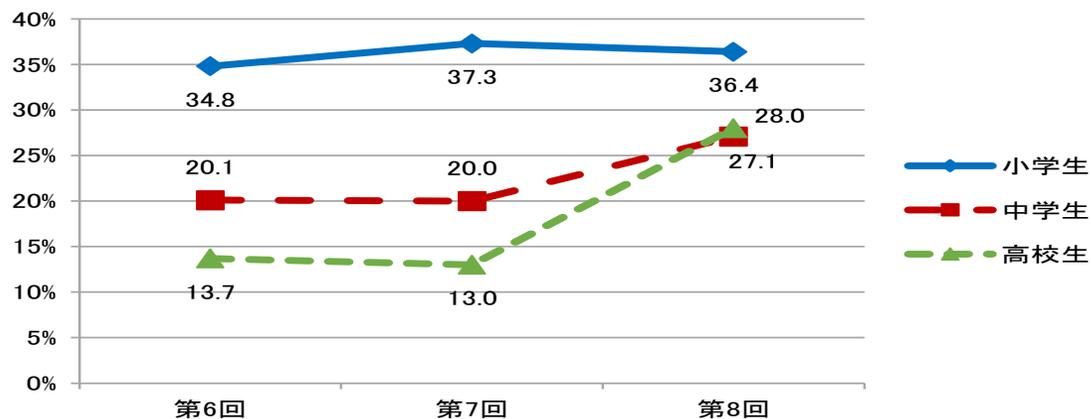
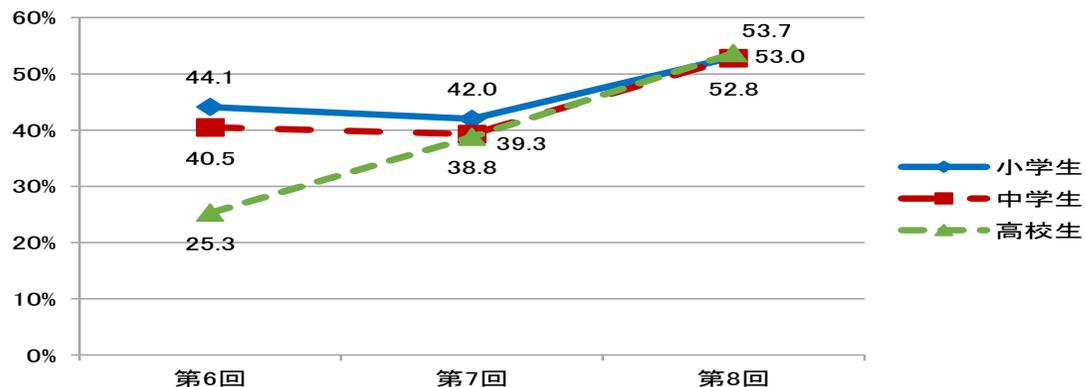


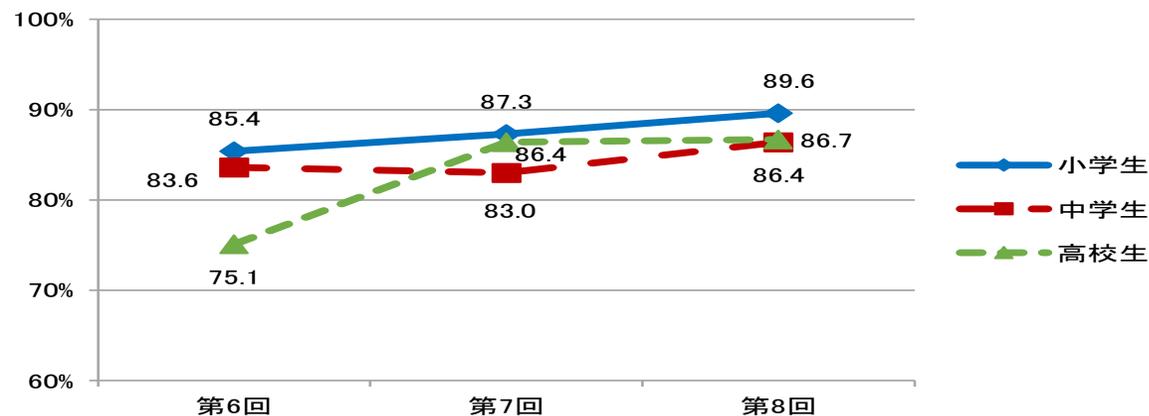
図2 「楽しい学校行事が多い」



(2) 家庭生活・家庭教育

「家族から大切に思われているか」について、「はい」と回答した割合は小中高生いずれも9割弱であり、前回調査と比較すると、微増傾向だった。

図3 「はい」



(別紙) 第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要

(3) 地域社会

ボランティアへの参加意思は、中学生と高校生では「わからない」と回答した割合が最も高く、青年では参加意思「ある」と回答した割合が43.6%と最多だった。前回調査と比較すると、「ある」と回答した割合は各年代で減少傾向にある。

図4 ボランティアへの参加意思

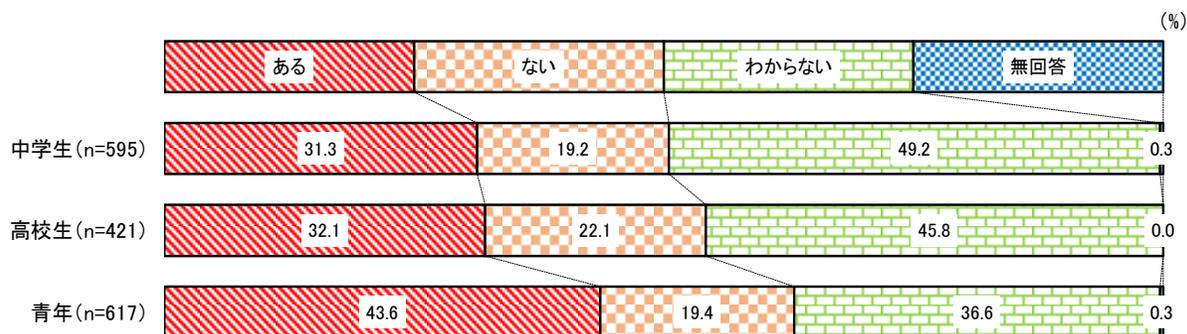
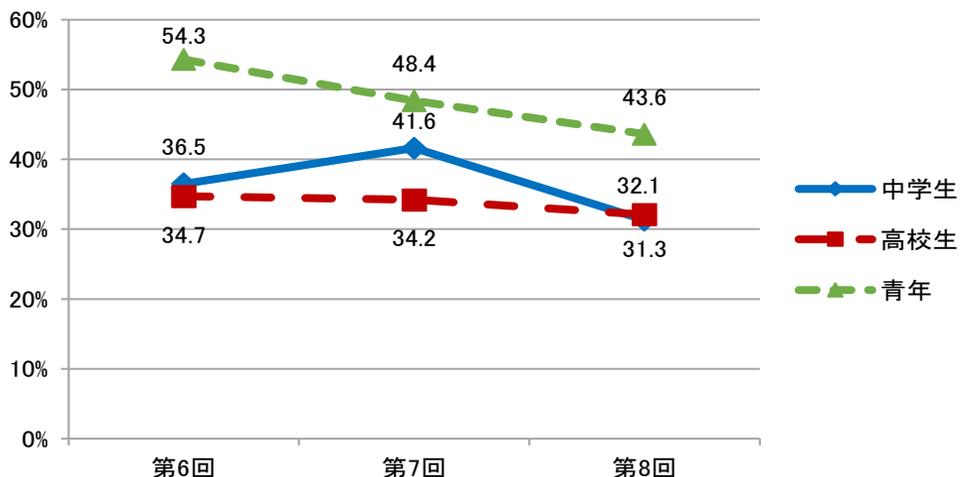


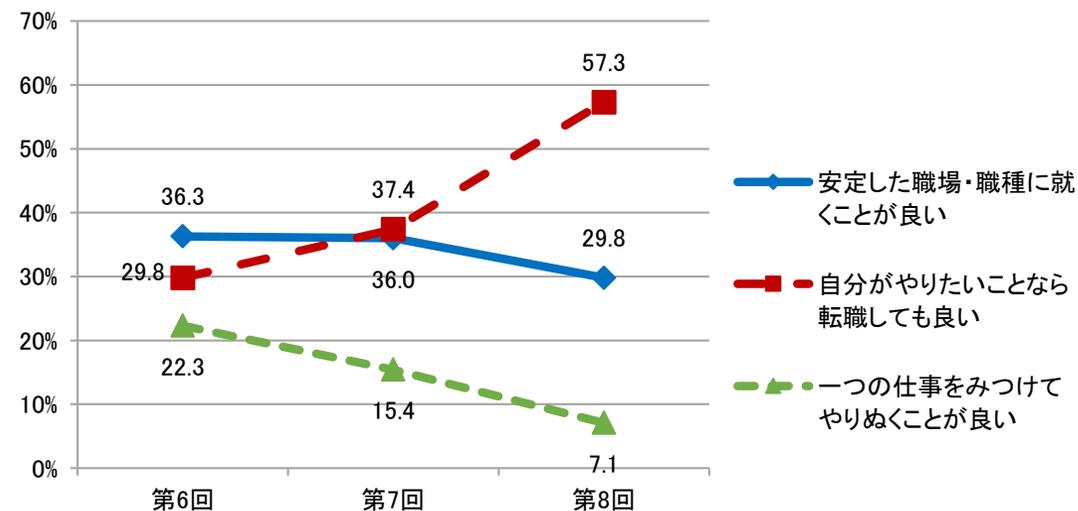
図5 ボランティアへの参加意思「ある」



(4) 就労意識

保護者に、子どもの就労に対する考え方を聞いたところ、「自分がやりたいことなら転職しても良い」が57.3%と、「安定した職場・職種に就くことが良い」の29.8%を上回った。前回調査結果と比較すると、「自分がやりたいことなら転職しても良い」は増加傾向にあり、前回調査結果 (37.4%) から大幅に増加した。

図6 子どもの就労に対する考え方



(別紙) 第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要

(5) 生活全般

中学生、高校生ともに、「学校をさぼる」、「いやらしい雑誌や動画を見る」、「髪を染めたり脱色する」、「ピアスをする」、「タトゥー(入れ墨)を入れる」など多くの項目で「してもよい」と回答した人の割合は前回調査よりも増加している。

図7 「してもよい」(中学生)

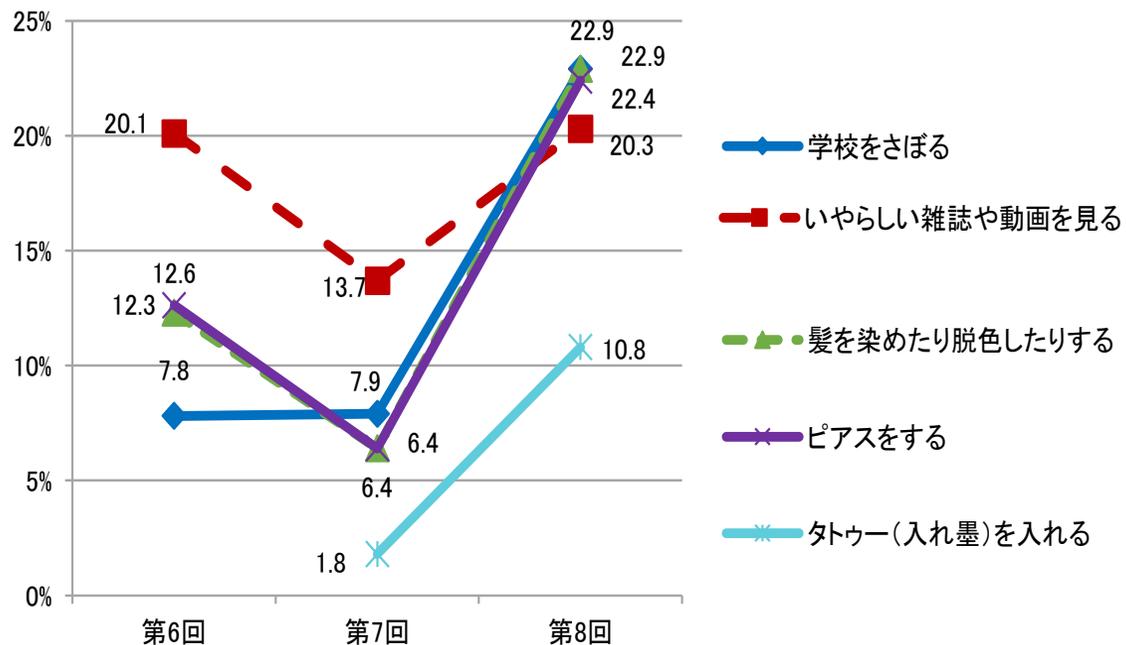
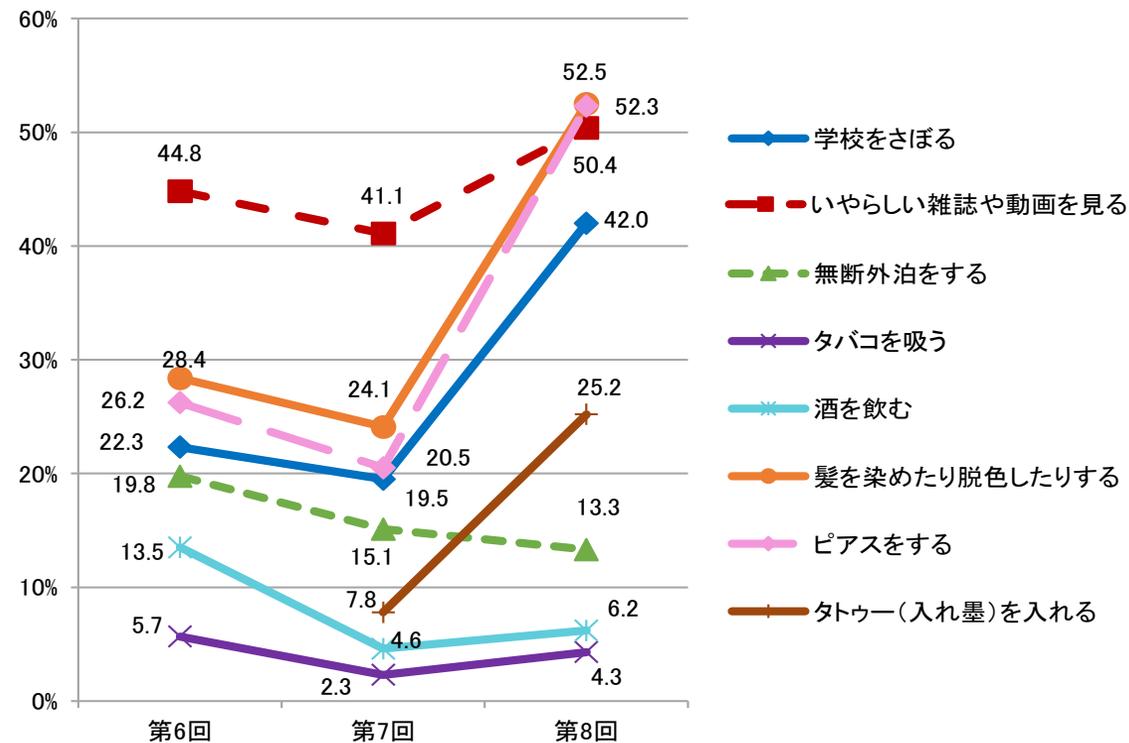


図8 「してもよい」(高校生)



(別紙) 第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要

(6) インターネット

スマートフォン、タブレットの利用時間は、前回調査結果と比較すると、小学生は、「全くしない」や「30分より少ない」の割合が10%以上減少し、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上、4時間より少ない」、「4時間以上、5時間より少ない」が大きく増加している。中学生も小学生と同様に、「全くしない」の割合が10%以上減少している。一方で、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上、4時間より少ない」の割合が10%以上増加している。高校生は、「30分以上、1時間より少ない」の割合が5%以上減少している一方で、「3時間以上、4時間より少ない」が約5%増加している。

図9 スマートフォンの利用時間（小学生）

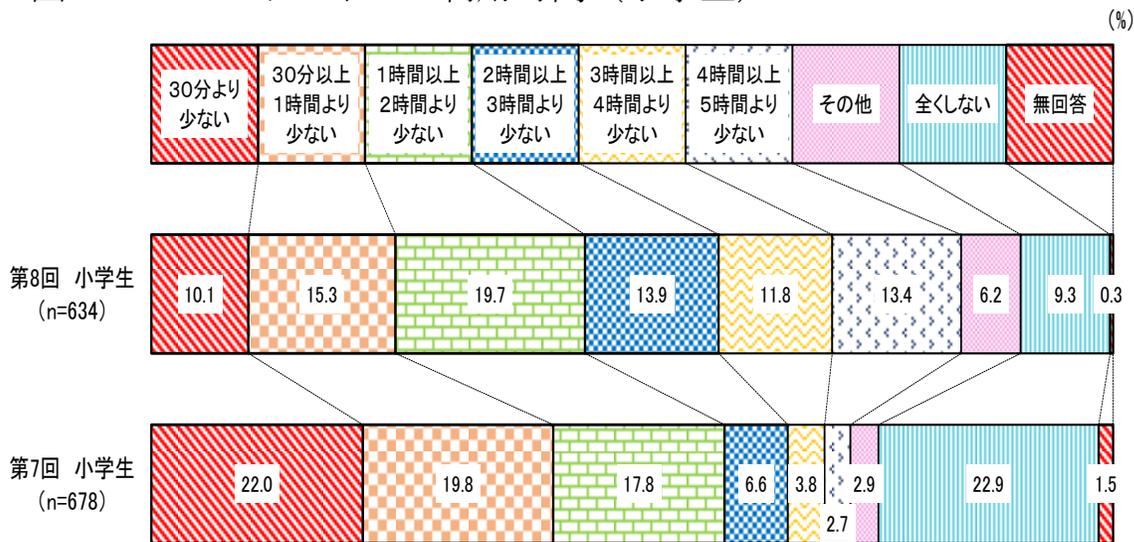
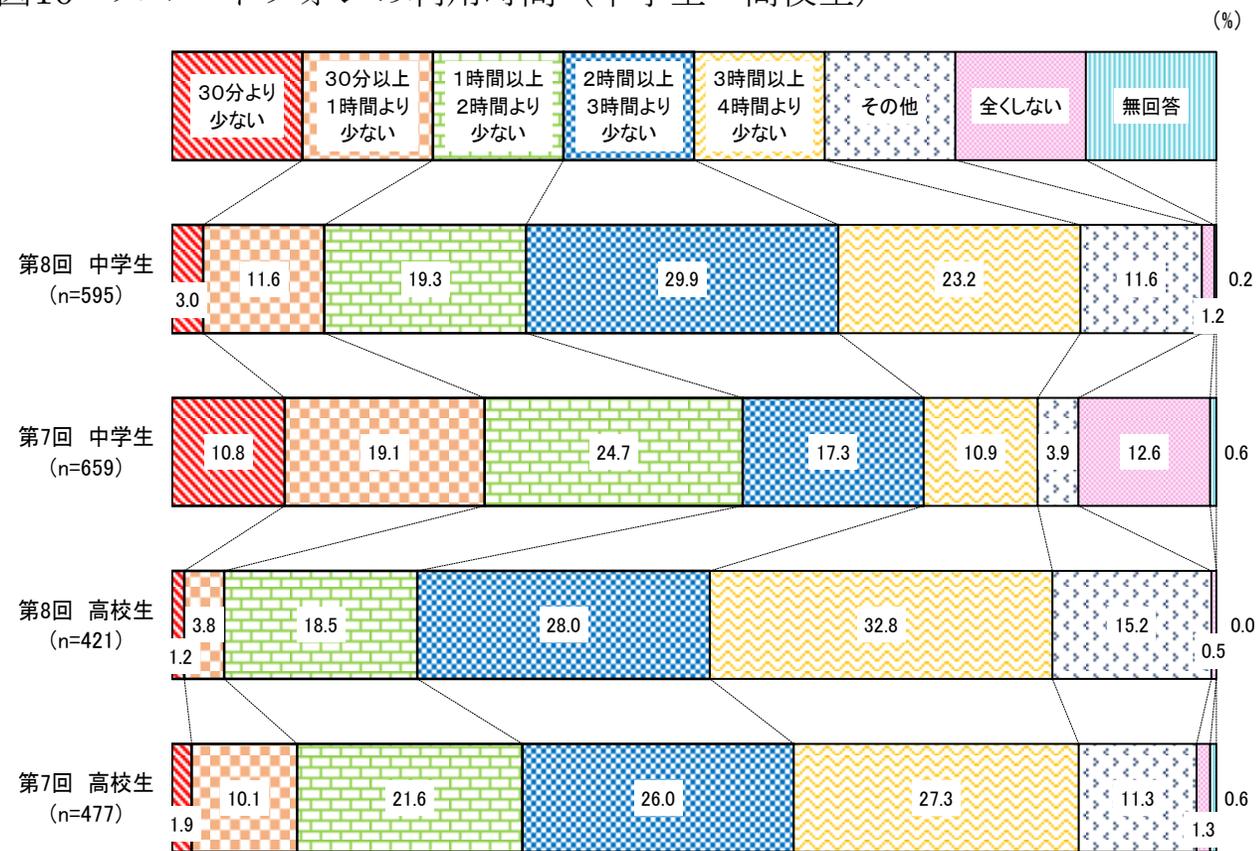


図10 スマートフォンの利用時間（中学生・高校生）



(別紙) 第8回ぐんま青少年基本調査結果の概要

(7) 新型コロナに関する質問との関係

新型コロナの影響により学校や友達との関係の変化を感じたグループでは、小学生では15.4%、中学生では22.8%、高校生では19.9%が学校に行きたくなかったことが「よくあった」と回答した。一方で、変化を感じなかったグループの「よくあった」の割合は小学生では12.5%、中学生では13.9%、高校生では15.2%と、変化を感じたグループに比べて低くなった。また、放課後一番よく遊ぶ人について「ひとり」と回答したのは、変化を感じたグループでは23.9%だが、変化を感じなかったグループでは13.4%となった。変化を感じたグループでは、登校意向の低さや、放課後ひとりで遊ぶ傾向が見られた。

図11 「学校に行きたくなかったことの有無」と「学校や友達との関係の変化」との関係 (%)

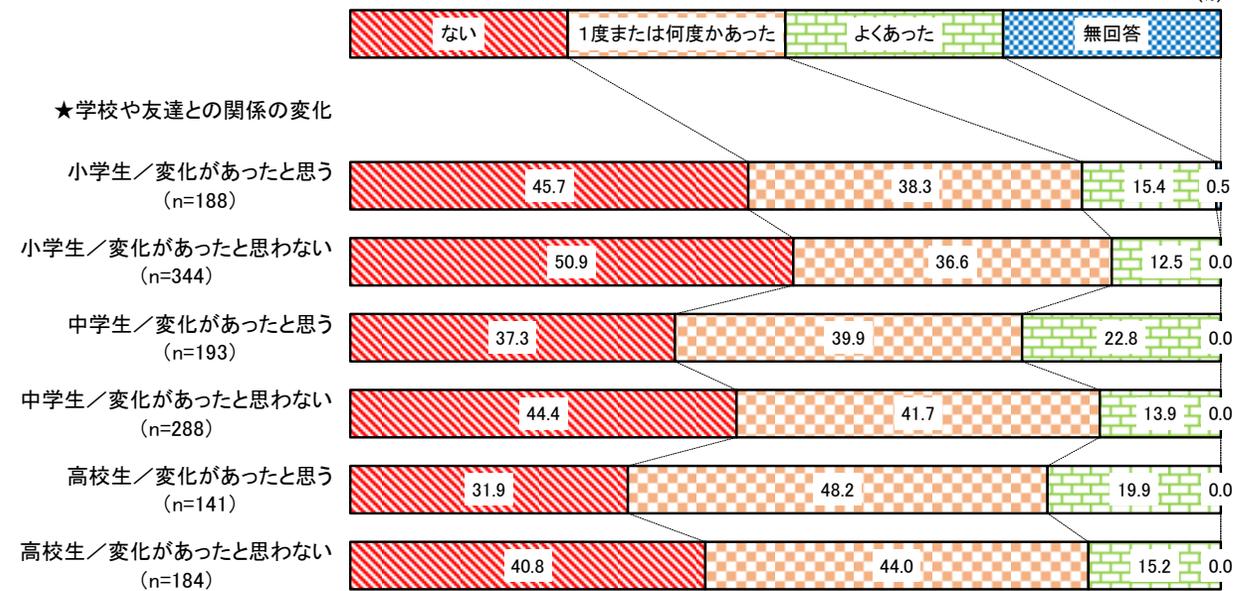


図12 「放課後一番よく遊ぶ人」と「学校や友達との関係の変化」との関係 (%)

